



3月号 令和8年2月19日 発行

四中だより

朝霞市立朝霞第四中学校
埼玉県朝霞市栄町 5-1-60
TEL(048)466-4711
Fax(048)467-4744

目指す学校像

生き生きと学び、夢と希望を胸に、感動を実感できる学校

「考えることをやめない」 ～中学校卒業に寄せて～

校長 おおた さだはる 太田 禎治

「1月はいく」「2月はにげる」とはよく言ったもので、月が経つのは本当に早く、3年生が朝霞第四中学校で生活する日も残りわずかとなりました。来週には県公立高等学校の入試が行われ、本校でも90名を超える生徒が受検します。最後の瞬間まで頑張ってくださいと思います。

今年も卒業式の時期を迎え、校長として中学を卒業していく生徒に最後にどんな話をすればよいのか頭を悩ませているところです。昨年と同じ話というのも安易で嫌なので、今月の学校だよりでは、あえて昨年の卒業式で話した内容を紹介させていただきます。

【以下 令和7年3月14日 卒業証書授与式 学校長式辞より】

中学校卒業という新たな門出の日に際して、フランスの哲学者ブレイズ・パスカルの言葉を紹介します。哲学者パスカルと聴いても「誰」とピンとこない人がほとんどでしょう。ただ、理科の授業で学んだ圧力の単位であるパスカル、天気予報でよく耳にするヘクトパスカルのパスカルと聴けば、きっとわかってもらえるはずです。科学の世界に名を遺したパスカルですが、哲学者としても有名な言葉を遺しています。それが、「人間は考える葦（あし）である」。葦とはイネ科の多年生植物で、水辺に生え、茎を編んですだれにするもの。パスカルは人間という存在についてその著書「パンセ」の中で次のように記しています。

「人間は自然の中では一本の葦のように非常に弱い存在である。しかし人間は頭を使って考えることができる。考えることこそ人間に与えられた偉大な力である」と。

みなさんが中心となって担っていくこれからの21世紀の社会は変化が激しく、先を見通すことが難しい不確実性の時代だといわれています。生成AIがさまざまな分野で導入される時代になり、人間がこれまで積み重ねてきた知識だけでは、対応できないこともでてくると考えます。だからこそ、みなさんにはあらゆることに対して真剣に考えて欲しい、考えることをやめないで欲しいのです。考えぬいた末の結論であれば、たとえ結果が失敗に終わったとしても納得できるはずです。

私たち朝霞四中の教職員は、皆さん一人一人が「考える力」を武器にそれぞれの舞台で活躍することを確信し、その日を楽しみに待とうと思います。

来月13日は「卒業証書授与式」。義務教育を終える3年生に今年は校長式辞でどんな話をするのか。これから当日まで頭を悩ませることになると思いますが、生徒たちと対話をしながら、それも校長としての楽しみの一つと考えて準備したいと思います。